

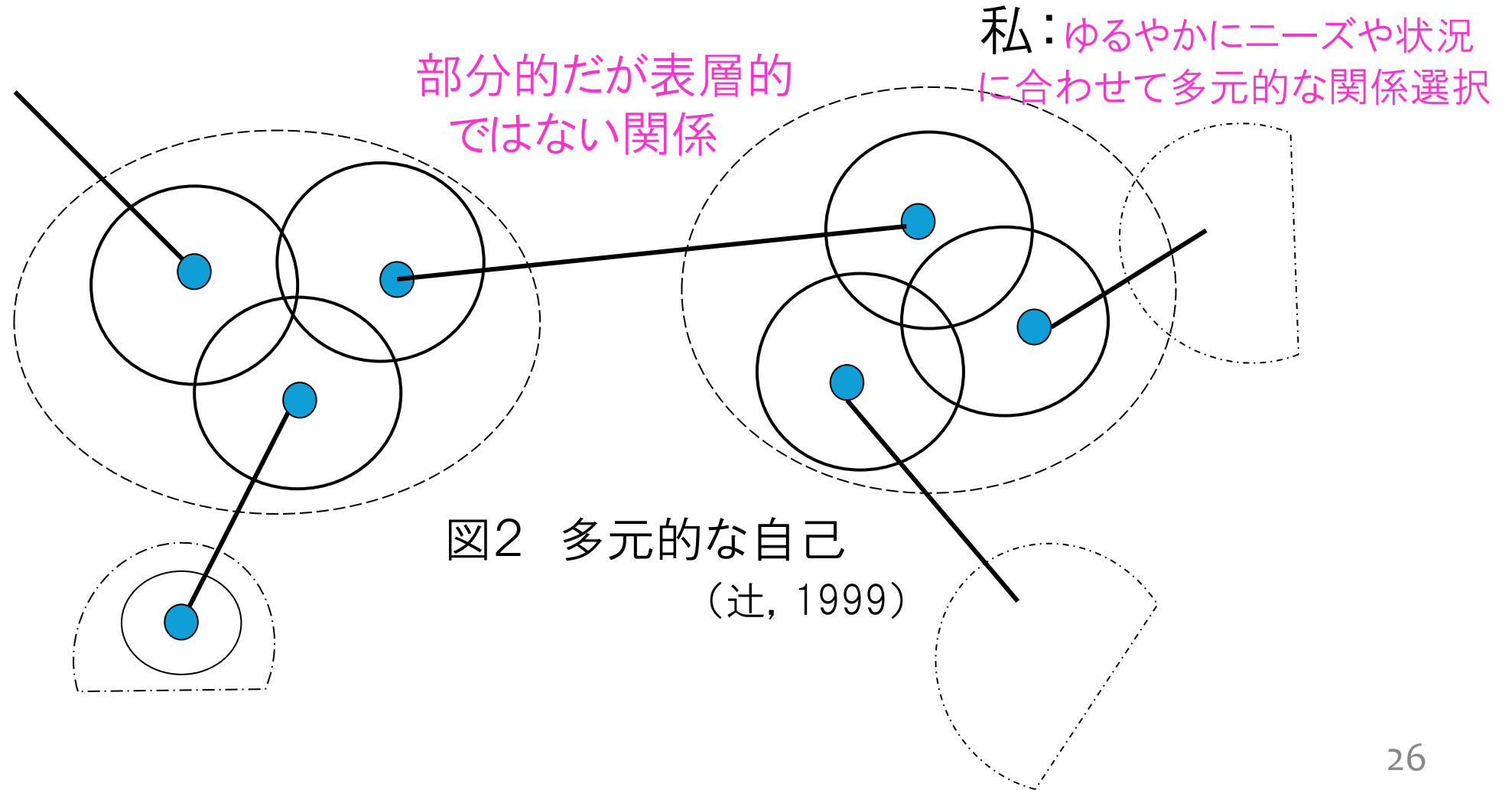
参考資料2

現代青年かたぎ

Key word

- 人間関係への過敏 ➤ 過剰な配慮
- 悩み方が分からない ➤ 一人で考え詰めてフリーズ
- うつの蔓延 ➤ 意欲低下・集中力低下し、一挙に絶望(郭, 2014)
- 選択的人間関係 ➤ 対人フリッパー(辻, 1999) 関係のonとoff
多元的な自己

➤ 多元的な自己(辻, 1999)



苦しむ若者考 1

- 対人関係の悩み
友人・対人関係のこじれ(サークル, ゼミ内, アルバイト先): 相互の気遣い, 配慮, 自信がない, 良い状態, 良好なかかわりだけを希求しがち
- 不登校(ひきこもり, 学業以外の活動の増加)の背景
調子が悪くなると「ひきこもる」(退却して自分を守る, 立て直す)など, 連絡にも応じない, そして突然何もなかったように元気な様子で現れる
- 本人の抑うつ的な状態, 苦痛を日常かかわりのある人はほとんど知らなかったりする… 知られたくない…

苦しむ若者考 2

- 訴えの変化

- ① 心理化(悩む)

- かつて「悩む」とは、自分自身でと同時に重要な他者に「悩み」を打ち明け、聞いてもらい、意見を求めることが当たり前のことだった

- なかなか人に相談できないのはなぜ？

- * 相手に迷惑をかける

- * 迷惑をかけると嫌がられる,

- 関係が悪くなる → 「避けられる」「いじめられ」のロジック

- こんなことで悩んでいるのかと思われ、評価が下がるのではないかと → 自分で解決しなければならないと思いこんでいる

苦しむ若者考 3

一人で考え込む：ひきこもる

- * この姿は人を不快にする？； 心配をかける，負担なる
嫌われると気遣い
- * 弱い自分；弱みを見せられない，付け込まれる 恥ずかしい
- * 自分の望むような解決の提示なら、受け入れ，それ以外は拒絶→
誰にも煩わされない自己愛カプセル・イン
ゲームにのめりこんで逃避をしているようで，身体のこころのどこかで
苦しみ続けている
- * 傷つけることも傷つけられることにも敏感

苦しむ若者考 4

身体化：身体症状化

心身症化 発熱，頭痛，不眠，過眠，消化器系症状，疼痛，摂食に関する困難等々

背景にうつ，セルフネグレクト傾向

- 身体化するのは幼い子どもの状態：心理化の困難さ
- できそうにない→どこにも行きたくない，したくない，などの感情に直面することなく，回避する

当人自身の支えのない，寄る辺のない状態の身体化…

苦しむ若者考 5

- 行動化(自傷・他害)

- * 明確に「死にたい」と追い詰められていることを自覚していない, もしくは過剰に意識し, 「死ぬしかない」と視野狭窄状態が

- 加速化 → 対人関係の希薄化や弱いところを見せない,

- 親にも言えない or 言わない「迷惑をかける」「なにもし
てくれないだろう」と諦めている

- 「想像」が一挙に「行動」へ移行する

- 希死念慮が自殺企図へつながりやすい

- 他罰的な発想が相手次第の企図となる

- 「あなたがそう言うなら死にます」

参考：資料3, P3 自死の対人関係理論

苦しむ若者考 6

土井隆義, 2004, 『「個性」を煽られる子どもたち
親密圏の変容を考える』

- 恥ずかしい→ 怖い → 社交不安, 対人恐怖
- 苦しい→ ムカつく, キレる→ ひきこもり
- 考える・悩む→自己感覚化: 生理的, 内発的, 衝動的な
感覚での判断→自己完結的な世界に陥りやすい
←当たり前みたいにそばにいてくれる人, 受け入れてくれている人がいる
だけでほっとするのだろう.
受け容れるとは甘やかすことではなく, 今の困難さを理解しようとする
ベクトル 同じ方向をともに眺める人…
- 人への気遣いとは対照的に自分自身への気遣いは表層的には拒絶し, 無意識には, 注目と抱え, 承認を必要としている 小さな承認, できていないことをまだできていないねと見ていてくれること…どこにでもいそうで…

引用・参考文献

- 木谷，岡本，2015，「青年期における多元的自己とアイデンティティ形成に関する研究の動向と展望」
- 浅野智彦，1999，「親密性の新しい形へ」
- 辻大介，1999，「若者のコミュニケーション変容と新しいメディア」
- 大平，1995，『やさしさの精神病理』
- 千石保，1991，『「まじめ」の崩壊 平成日本の若者たち』
- 落合・佐藤1996，『青年期における友達との付き合い方の発達』教育心理学研究, 44
- 広沢正孝，2015，『学生相談室から見た「こころの構造」』